

○10番（田山文雄君） 皆さん、おはようございます。議席10番、田山文雄でございます。本日は、足元の悪い中、議会傍聴にお越しいただきまして、大変にありがとうございます。議長より発言の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。執行部の誠意ある答弁をよろしくお願いいたします。

まず、1項目めの平和教育の充実についてお伺いをいたします。今年2025年は、終戦から80年という大きな節目を迎えました。私たちは、さきの大戦で犠牲となられた内外の全ての方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、戦争の惨禍を二度と繰り返さないとの誓いを新たにしなければならないとの思いであります。戦争の記憶の風化が懸念をされ、また悲惨な戦争を体験された方々が高齢となる中、その貴重な体験と平和への願いを、いかに次代を担う子供たちに継承していくか、戦争体験者の方々の高齢化によって、直接お話を伺う機会は年々貴重にもなっています。真実の重みを伝えていくことは、現代に生きる私たちに課せられた極めて重要な責務であると思います。

私ども公明党は、この平和の党として結党以来、生命、生活、生存を最大限に尊重する人間主義を掲げ、一貫して平和の道を追求してまいりました。とりわけ未来をつくる子供たちへの教育こそが、恒久平和の礎を築く上で最も重要であると考えています。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻が長期化をし、世界各地で紛争が頻発するなど、国際社会が緊迫の度を増す今だからこそ、子供たちが戦争の悲惨さと平和の尊さを主体的に学び、平和な社会を築くための資質や能力を育む平和教育を一層強力に推進していく必要があると思います。私自身も、今年8月に広島平和記念資料館を見学に行っていました。改めて、原子爆弾の恐ろしさを実感いたしました。遠方のため、こちらから行くことは難しいと思いますが、広島近隣の子供たちが大型バスで何台も来ていました。そして何よりも、半数以上が外国人の家族連れの方々が来場され、静粛の中に一つ一つ展示に対しましても真剣に見入っていることにも驚きました。また、その公園内の別施設でありましたが、被爆者の体験をバーチャルで見ることができたり、被爆者の体験を映像で聞くことができたりすることもできました。貴重な体験ができたと私自身は感じることができました。

そこで、当町におきます現状の平和教育の取組についてお伺いをいたします。

次に、2項目めの生成AIの活用についてお伺いいたします。近年この生成AIをはじめとするAI技術は目覚ましい進化を遂げ、社会のあらゆる面でその活用が急速に広がっています。これは、単なる業務の効率化にとどまらず、新たなサービスを創出し、私たちが直面する複雑な社会課題を解決する力を持っています。この大きな時代の変化は、地方自治体も決して無関係ではられません。むしろ人口減少や高齢化、多様化する住民ニーズといった課題を抱えるからこそ、AIを積極的に活用し、行政サービスの質の向上と持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。AIを、町民の暮らしを豊かにする賢く便利な道具としていかに使いこなしていくか、その視点に立ち、また行政事務においても、どのように活用していくかが重要であると思います。

このAIの活用については、昨年の6月定例会においても、自治体の業務効率化、行政サービスの

質の向上に向けた生成AIの活用についての質問を行いました。その後の当町としての取組について、また今後のさらなる活用についての考えをお伺いいたします。

以上、2項目2点についての1回目の質問を終わります。

○議長（倉持 功君） 最初に、平和教育の充実についての質問に対する答弁を求めます。
教育次長。

〔教育次長 大竹良彦君登壇〕

○教育次長（大竹良彦君） おはようございます。田山議員の1項目め、平和教育の充実についての戦後80年の節目において平和教育の充実が必要であると思うが、当町においてどのような取組をしているのか伺いたいとのご質問にお答えいたします。

平和教育は、人間の生命の尊厳に基づき、戦争に反対し、対立や紛争を平和的な方法で解決する能力を育む教育であり、学校教育におきましては学習指導要領に基づき、小学校、中学校の各教科、道徳、総合的な学習の時間などで発達段階に応じて位置づけられ、実施されております。当町においても、各小中学校において以下のような取組を進めております。

小学校では、国語、社会、道徳などの時間に平和教育を実施しております。例えば境小学校では、5年生の国語の「たずねびと」の学習で戦争について調べる学習を行うとともに、その当時の人々の暮らしに触れ、平和について考えたことをまとめて、児童同士が相互に伝え合う学習を行っています。長田小では、6年生の社会の「戦争と人々の暮らし」で平和について考える場面を設けるとともに、6年生が筑波海軍航空隊に所属していた方のご遺族の話を聞く事業をこの12月に予定しております。さらに、猿島小、森戸小、静小では、3年生の国語で空襲に遭った家族を描いた「ちいちゃんのかげおくり」において、戦争や平和について考える場面を設けております。

次に、中学校では国語、社会、保健体育、道徳、音楽などの時間に平和教育を実施しております。境第一中学校においては、3年生の道徳で「平和をつなぐ」という題材で、被爆者の活動を通して平和な社会づくりについて考える機会を設けました。また、音楽の授業では、戦争や平和に関する歌唱や合唱曲を通して、戦争の悲惨さや平和への願いを音楽で表現しました。境第二中学校においては、3年生の社会の公民分野で憲法第9条について、また歴史分野では第二次世界大戦について学んでおります。また、保健体育の授業では、全学年においてオリンピックについて取り上げ、スポーツを通じた国際平和について考える機会を設けました。

今後も、戦争の悲惨さや平和の尊さを理解し、平和な社会の実現について主体的に考えることのできる児童生徒を育成できるよう、平和教育の充実に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し質問はございますか。
田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 先ほど言いましたとおり、今年実は僕も広島に行って、広島のアそこは70周

年ですか、できたということもありましたので、初めて行かせていただきました。今まで僕もテレビとか、いろんな話を聞いてはいましたけれども、やっぱり実際見に行くと違うなというのは感じます。町長がよくいろんなところへ行って、実に自分の目で見て感じる事が大事だと言われましたけれども、自分自身が本当にそう感じました。

その中で、先ほど各小中学校でいろんな取組をされているということがありましたけれども、質問の中で言ったように、やっぱり被爆された方とか戦争を体験した人が、今はもう高齢化で実際話を聞く機会が減っているというか、非常に貴重だということをさっき言ったと思うのですが、その中で実は広島へ行ったときに、全国に無料で派遣しますと書いてある、こういうのがあったのです。この前説明のときに次長にも話しましたが、これを見ますと、交通費はちょっとこっちが持たなくてはいけない、確かに高いです。その中に、東京の国立市が養成したところが原爆体験の伝承者ということであるというのがあったのです。決して国立ですと、そんなに交通費もかかる場所ではないと僕は思うのです。だから、こういったところというか、こういった人たちをちょっと積極的に呼んでやってみるのもいいのではないかなというふうに僕は思うのです。いろんなところありますよ、もちろん。ましてや広島まで行かなくても、つい最近ですか、東京のほうでもたしか展示をやったりとかあって、そういうやっぱり身近に行けるときの機会をもっと積極的に宣伝してあげたりとかしてあげることも僕は大事ではないかなというふうに思うのです。だから、今のを聞きますと、やっぱりさっき長田小学校で今度12月にやりますって話がありましたけれども、各小中学校でもぜひそういった機会をちょっと考えていただきたいなというふうに思うのですが、この辺について答弁を求めます。

○議長（倉持 功君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、田山議員さんのご質問にお答えします。

先ほど次長に話したという話がありましたけれども、昨日次長を呼んだときにはそんな話は一切なかったもので、そのときに言ってもらえれば、回答の中で、ぜひ検討していきたいって話もできましたし、なのでこういうところがやっぱり教育委員会の問題かなと。いいことを提案されても全然方向が、教育長には上がっていたの。教育長には上げたのかって聞いている。

〔何事か言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） こういうのだ。これが問題なわけです。だから、やっぱり議員さんたちと我々が一体となって、子供たちの教育のためにいいことをやっていくのには、提案されたら、こういうのを提案されましたというのをやっぱり我々に上げて、判断は我々がして、責任は我々が取りますから。やっぱりいいことであればしっかりやっていきたいと思いますし、まず先ほど田山さんも言ったとおり、これがいいかどうか分からないという話もあったので、例えばこういう方呼んで、行ってもいいですね、教育委員会とか。我々が行って、聞いて、これ子供たちのためにいいと、では呼ぼうということもできると思いますし、近くで、この関東のどこかで呼んでいる例があれば、そこに聞

きに行けばいいわけですよ、やっているときに。よければ子供たちに入れればいいだけです、もう全然交通費とか宿泊費というのは大した金額ではないですから、よければそういう子供たちの、もうこれだけ戦後長くとつと本当に遺族会も小さくなってきていて、非常に戦争を語る方々も少なくなってきましたので、実体験として平和というのは重要だということを、もう本当にすぐそこに危機が今あるわけですから、やっぱりそういう平和教育、我々もしっかりとやっていきたいというふうに思っておりますので、田山議員だけではなく様々な皆さんにどんどん提案いただいて、しっかりと子供たちの教育もやっていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 町長から、ぜひやっていきたいということがありましたので、先ほどは広島でしたけれども、昨年でしたか、ノーベル平和賞をいただいた被団協。被団協そのものは僕もちょっといろいろあれかもしれないのですが、ただその核兵器をなくするという団体があって、そういう人もここだけに限らず、核兵器はやっぱり駄目だということを広めていくような、そういうところもありますので、ぜひ教育委員会にいろいろ提案させていただいて、1回……

〔「こっちに来たほうがいい」と言う者あり〕

○10番（田山文雄君） そっちに来たほうがいい、町長に言ったほうがいいということですが、ぜひ検討していただいて、やっぱり大切だと思います。僕は本当に行って、さっき言った、この後のA Iにもつながりますけれども、バーチャルリアリティーで見まして、今から原爆が落ちてくる、そうしたら周りがどうなったかみたいな、そんなのを見せてもらいましたけれども、本当にみんな、非常に若い青年なんかも真剣にやっていました。だから、本当にこういった機会をつくっていただきたいと思っておりますので、ぜひ町長にまた提案させていただきますので、よろしくお願いします。

○議長（倉持 功君） これで、平和教育の充実についての質問を終わります。

次に、生成A Iの活用についての質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長 島根行雄君登壇〕

○総務部長（島根行雄君） 改めて、おはようございます。それでは、田山議員の2項目め、生成A Iの活用についての昨年の6月定例会においても自治体の業務効率化、行政サービスの質の向上に向けた生成A Iの活用についての質問を行ったが、その後どのようなになっているのか、今後の取組について伺いたいとのご質問にお答えをいたします。

初めに、生成A Iについてご説明を申し上げます。生成A Iの活用により、大規模定型処理の自動化や専門知識が必要な案件等にも対応が可能となるほか、質疑応答をはじめ、文章の新規作成や要約、添削等、様々な用途で利用できることから、当町の政策、情報等を生成A Iに学習させ、答弁書作成

や通知文書作成業務等への活用を進めることで、業務の効率化や住民サービスの向上につながるものと考えております。

次に、昨年の6月議会定例会にて、田山議員に生成A Iについてのご質問をいただいたことから、昨年7月18日に議員の皆様とともに総務課長が、デジタル行政のA I事例視察として山形県西川町の取組を研修してまいりました。西川町では、町民全ての世帯、1,700世帯に1台ずつタブレットを配付して、防災、広報、町の情報等を配信するサービスを実施しており、将来的には双方向通信等によりお問合せ用の受付や、高齢世帯の安否確認などに活用すべく準備を進めているとのことでございました。

次に、当町における生成A Iの活用についてご説明を申し上げます。現在起工式、竣工式等の式典時に町長挨拶、海外姉妹都市交流等での各国レセプションにおける町長挨拶など、式典時の挨拶の文章に生成A Iを活用しております。また、令和8年4月1日付職員採用のポスター作成時にも活用したところでございます。併せて、例えば弁護士によるリーガルチェックを受けるに当たって、論点や法令の適用関係などを整理し、資料の作成にも用いるなど、より多くの用途に活用しております。今定例会には、使用時間の制限なくより効果的な生成A Iを活用するため、生成A Iライセンス使用料の補正予算を計上させていただいておりますので、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

次に、生成A Iの県内自治体導入状況についてご説明を申し上げます。県を通して実施された総務省の生成A I導入状況の調査結果によりますと、県内44市町村中、水戸市、日立市、土浦市、下妻市など22自治体で導入されているとのことでございます。また、導入効果につきましては、業務時間の大幅な削減につながったと回答したのが3自治体、パソコン操作の問合せが減ったと回答したのが1自治体、自然な文書をつくってくれると回答したのが1自治体でございました。また、同様に課題につきましては、セキュリティーに不安があると回答したのは1自治体、A Iに学習させるのに手間がかかると回答したのが1自治体、会議録作成に当たり、会議が長いと文字起こしに時間がかかると回答したのが1自治体でございました。

次に、今後の当町の取組についてご説明を申し上げます。町といたしましては、生成A Iを一層活用することにより、職員の負担軽減及び業務の効率化を図ることで住民対応時間を確保し、多様なニーズに対応する事業に専念できるようにして、住民サービスの向上を図ってまいります。また、令和7年7月16日付文書により、茨城県政策企画部DX推進監兼情報システム課長から、生成A Iの共同調達に係る調査依頼が来ております。この中で、県では町村の業務効率化に向けてより一層の支援を図るため、生成A Iの共同調達を検討している旨と、この参加希望等についてのアンケート依頼がありました。

こうしたことを踏まえ、町といたしましては安定した持続可能な住民サービスの提供と職員の業務効率化等を図るため、より効率的、効果的な活用方法を検討し、さらなる生成A Iの活用に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 今答弁の中で、生成A Iを使っているところというのが、何か境町が入っていなかったような気がするのですが、A I既に使っているのではないですか。答弁。

〔何事か言う者あり〕

○10番（田山文雄君） 意味合いが違うのですか。

〔「回答の間違い……」と言う者あり〕

○10番（田山文雄君） そうなのですか、すみません。

○議長（倉持 功君） 野尻副町長。

○副町長（野尻智治君） ただいまの田山議員のご質問お答えします。

実際私ども使っております。先ほど答弁申し上げたとおり使っておりまして、その報告をするときに、たまたま使っていないということで回答してしまったということでございますので、訂正をいただければ幸いです。何とぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 境町もA I デマンドタクシーとか、これはやっぱりA I 使っているわけですよね。何でかという、僕も使っている生成A I の中で聞くのです。A I を活用している自治体の事例を出してくれという、ばらばら出てくるのです、いっぱい。その中に境町入っていないと残念だなと思うのですが、さっき言ったA I を活用したデマンドタクシーとか、高萩とか出るのですけれども、境町はちょっと出てこない。これは僕の使っている生成A I の機能がちょっと弱いのだなと思っておりますが、すごいのです、今。活用例という、本当にばあっというばい出てきて、市町村名も出てきて、こんなことで使っていますよとか出るのです。多分前回の一般質問のときに、町長が生成A I 使ってこんな回答出ましたよって答えがあったと思う。だから、多分もう町も随分使われているのだという気はしていたのですが、まだ僕町の、この前の答弁の中であったのが、うまく言えなくて申し訳ないのですが、チャットボットというやつですか、A I の。要するに、例えばホームページの中にそういうのが入って、質問をすると答えがぼんぼん出るような。そういうのを、まだ境町のホームページには多分そこまで入っていないと思うのですが、これについて今後やっていくのはどうかということと、あともう一点が、これは議会が特になのでしょうけれども、議事録の作成なんかに使って文書化が早いです。今まで聞きながら文書をつくっているというのは、本当に時間がかかると思うのです。これもA I を使ってやると、あっという間に文章化されて、確かにちゃんと見直さなければいけないです。見直さなくてはいけないし、人間の目も必要なのだけれども、時間の短縮というのはすごく大幅にできるのではないかなというふうに思うのですが、この辺の活用というのは今後どうで

すか。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、田山議員さんのご質問にお答えします。

多分まだ日本のA Iは、そこまでに優秀ではない、非常に。さらには、職員間に対しても教育をしていない。なので、A Iを使う、例えばチャットG P Tを使ったりグーグル使ったりするでしょうけれども、実際に使えて、さらには行政がやっているかという、個人的にはあったとして、個人的には毎日話しかけて話し相手になっていたりと様々なのはあったとして、まだちょっとそこまでに主に行けるほどには、多分行政は追いついていないのではないかというのが僕の見解であります。

1つは、今町で考えていたのは、ちょっとライセンスも聞いたら、今は個別に入れているのですけれども、個別でないとはぼ入らないと。なので、230名職員いると230名分の、もしくはパソコン200台あれば200台分のライセンスを入れなくてはいけないということもあるので、その前に、まずA I、チャットG P Tでもいいですけれども、使って何ができるのか、そして何をすればいいのか、これを幹部職員、そして職員全体間に研修をするのが、まずは一番いいのではないかな。なぜならば、僕も挨拶文なんかも実は今はつくっていると書いてありましたが、僕がつくっているわけです。僕がチャットG P Tに言って、僕がつくっているのです。そのほうが早いですから、1分ぐらいでできますから。職員につくらせると、申し訳ないけれども、指示なのです。プロンプトがやっぱり、要は入力する人によって全然違うわけです。だから、入力する人がつくったものと、僕が指示してつくったもので全然違うわけです。だから、やっぱり入力のところの際しては研修をやっていくことによって、ああ、こういうふうに指示をすればこういう結果が出るのかとか、要は入力のとときに誰々の何とかとか、あれが結構重要なわけです。例えば茨城県境町の町長が挨拶しているふうに書いてくれとかって最初に言わずに、ただ単にこのイベントがあるから書いてくれとかという、全然違ってしまいます。なので、まずはそういう使い方のことを教えることをしなくてはいけないし、さらに言うならば、やっぱり僕は議員の皆さんをエストニアに連れていきたいのです。エストニアは、やっぱりもうA I教育すごいわけです。テングレード、16歳で全ての国民がA Iをやっていて、フィンランドを超える教育国になって、今トップなわけです。日本で言うと、A I怖いのではないのか、A I間違っているのではないのか、A I子供たちに教えて大丈夫とかというわけです。でも、実際のところからしたら、今までのもしかすると無駄という言い方は悪いかもしれないけれども、今までやっていた何かは、A Iを使うことによって極限に短縮されて、子供たちが非常に時間を使えるようになったりもするわけです。やっぱりこれがいいか悪いか、もう25年やっていますから、エストニアは。ぜひ行って、15時間ぐらいですから、行って皆さんと一緒に、元首相仲いいですから、全部教育見せてもらえますから、学校で実際やっているのも見ていただいて、境町に入れていって、今のこの世代がA Iをというのもあるでしょうけれども、僕らはやっぱり未来に投資をして、しっかりとそういう子たちを育てていって、この島国であって、しかも今東南アジアがすごく発展してきている中で日本が勝ち抜いていくた

めに、デジタルもしっかりやっていかななくてはならないという中では、そういうこともやっていかななくてはならないだろうというふうに個人的には思っているところであります。

実際に先ほどの僕は使っているだろうという話もありますけれども、使っていますけれども、この間何かアップグレードしてからあんまり、ばかと言うと怒られますね、利口ではなくなってしまったのです。この間まで、うわ、すごい利口だなと思っていたら、この間アップグレードしたら、何だこれまた教えなくてはならないのかみたいなものもあるものですから、とにかくは議員の皆さんの中でも使って、皆さん使っているのかな、使ったことがあります、チャットGPTとか生成AI。なければ、簡単に例えば皆さんが視察先行ったときに、この何々県何々町でこういう世代が好きなおいしい料理屋を教えてくださいとかというと、それ出てくるわけです。この間皆さんでホノルル行ったときも、それで出てくるわけです。こういう人たちに、例えばホノルル市議会議員の皆さんと一緒に食事をするために、この地域でどんなものがあるのかということ、市議会議員の皆さんですからこういうところがいいですねとかって言って全部出てきて、比較まで出るわけです。だから、やっぱり使い方によっては非常にこの生成AIというのは、ただ課題としては、僕は間違えた回答はあまり見ないのですけれども、間違えたら訂正して、何回も何回も質問していけば合ってくるのでいいのですけれども、最初の回答を信じてしまうと間違えていたり、さらにはこの間聞いた話では、何か汚い言葉でしゃべり続けていると、おまえとかって言われるということです、AIに。これも非常にどうなのかななんて思いながらもありますので、使い方をしっかり考えながら、ガイドラインを考えながらやっていくといいと思っているので、まず最初に職員の皆さんについてはそういう研修をやって、こういうのに使えますよ、こういうとき楽ですよ、県への報告なんかはこういうふうに入力すればすぐ終わりますよとか。なので、今まで例えば僕の挨拶文で言えば、挨拶文つくるのにすごい時間かかっているのです、みんな。何回も何回もやり取りしますから。駄目なので、指示しても何回も何回もやる。これでやると1分でできますから。今は、ソウルへ行ったときなんか、もう挨拶文とか自分でつくって、それを韓国語も入れてとかってやって、ぴっとやってくるとすぐできますので、もう職員さんが挨拶をつくる時間というのは、本当は職員さんがつくるのですけれども、僕がつくったほうが早いので僕つくってしまいますけれども、1分とか2分でできてしまいますので、非常にそういう意味では、こういう……

〔何事か言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） 時間になってしまう、ごめんね。では、この辺でちょっと1回終わりにして、とにかく活用するように検討はしていきたいですけれども、少しお時間をいただければと思います。

○議長（倉持 功君） 質問はありますか、もう最後。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 町長言ったように、本当に間違うとちょっと変なふうになってしまう場合もあるのです、このあれって。僕もさっき町長言ったように、質問項目を変えればやっぱり答えが違う

のも出てくるから、今後前向きにまた検討していただいて、ぜひ境町が先進モデルになるようにして
いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（倉持 功君） これで、田山文雄君の一般質問を終わります。